

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム和らぎの家
(ユニット名)	2階
所在地 (県・市町村名)	静岡県磐田市
記入者名 (管理者)	管理者 石山 貴稔
記入日	平成 20年 5月 9日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	オープン時より作った理念があり提示したりしてあることで意識し取り組んでいる。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	見やすいところに提示して取り組んでいる。皆で話し合いをし共有に努めている。年1, 2回の見直しで十分かは疑問。	○ 一人一人に対して理念に沿ったケアが出来ているか見直して行きたい。職員間の話し合いの場をもっと設けこの価値観の共有を図りたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	たよりの発行、イベントへの参加を機に取り組んでいる地域に向けてはまだ不十分のところも多い。	○ 交流機会をもっと増やしたり見学会等行うことで一般の方に知ってもらいたい。広報に理念について記載を入れていけばどうか。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時のあいさつや庭で過ごしているときに参加して下さる方もいて出来ていると思われる。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	祭り、イベントなど可能な限り参加できるよう努力している。	○ 幼稚園やその他近くの施設と交流会は出来ないか？現在途中であり今後も継続していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	呼びかけ、働きかけはしている。 推進会議内にて色々伺っているが、高齢者への所までは来ていない。	○	勤務内での参加は難しい所もあり。 今後どのくらい参加していくか要検討
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価後改善出るものは改善している。 毎年でなくても良いのでは？(代金の問題もあり)	○	すべて改善に向けて努力しているわけではない。 地域に向けてはもっと行えることがあるのではないかな？
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	不明 実施し、報告書を見ることで意識し取り組んでいる。	○	もっとわかるように掲示して欲しい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	不明 連絡を常にとりあえるようにはしている。	○	社協抱括センターとも交流し情報収集できたらと思う。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	定例会にて学ぶ機会があったがまだ不十分(理解できていない) すべてのスタッフが理解できておらずもっと深めていければ。	○	勉強会を実施して欲しい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定例会、カンファ時など使い話し合う事もあり、行っている。	○	定期的に勉強会を実施してほしい。 (新人に対して研修はしていない)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明し、理解、納得の上入居、退居して頂いている。しっかりと理解してくださっているかは不明。	○ プラン会時などを使い再確認を行って行きたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の中で話を伺っており記録などに残す事で意識し行っている。	○ すべての方で行えているわけではなくもっと情報収集が必要。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月一度のおたよりや特変時は電話等でその都度報告している。	○ 個々に手紙を書いたり支援していきたい
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱もあり伝えやすいよう努力している イベント参加や面会時、コミュニケーションを取り合い伺えるようにしているがどこまで出来ているか不明。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会、カンファなどを使い相談の上決めている。	○ スタッフ用の意見箱があれば。。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況等見極めながら勤務時間を変えたり調整している。	○ 職員数の増員が必要かとおもう。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動、離職が少ないため不明な点も多いが出来ているのではないか？ 現況管理者にすべて任されている。	○ 運営者と相談可能な方として運営できるようになって行ければ良い。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加、情報の提供を行ってくれている。	○	研修以外はなくアドバイザーを確保し勉強会をしてほしい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大きいイベントに参加してもらっているがそれ以外の交流は無い。	○	お便りを同業者むけに発信したりもっとやわらぎの家を知ってもらおうよう努めたい 気軽に行き来できるような環境作りが出来れば。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務調整や個々に原因解決を図ったりして努めている。	○	ホーム内での食事会、親睦会など定期的に行ければ。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日常介護やプラン等個々の状況に合わせて教えてくれたり研修にいかせてくれる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用後は行っているがそれ以前は不明。 入居前に可能な限り面会、来所機会を取り入れその人を受け入れられる様努力している。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前見学に来ていただきその都度対応している。 面会時やバザー会時行えるようしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来るだけ話を伺い色々な状況に応じて対応している。 ケアマネ同士連絡し合い行えている。	○	家人への聞き取りがさらに必要な方も居るのでは？
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	徐々に馴染んでもらえる様努力している。 本人に納得してもらった上での入居を心掛けており、それが出来なかったときは場所、スタッフ、利用者との関係作りを行っている。	○	家へ訪問してから入居できるよう心掛けたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活、イベントへの準備等共に行えるよう心掛けている。 謝の気持ちを忘れずに接するようになっている。 相手の立場に立ち自立支援を行っている。	感 ○	まだ関係作りが不十分な所もあるので意識して取り組みたい。 人と人として暮らす意味をスタッフ全員で共通意識を持てるようにしたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	イベント協力をお願いしたりしながら協力体制を構築している。	○	さらに信頼関係を築けるようにしたい 家人が得意(自信と喜び)になれるような言葉かけや環境をもっと考えていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	理解に努め話し合いを繰り返し支援できるように努めている。 親としての気持ちを伝え意識してもらえるようにしている。		どこまで踏み込んで良いのかわからないことがある
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り馴染みの場所へいけるように努めている。	○	もっと地域、家族の協力も得ながら回数を増やしたり多くの人に言っていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	必要以上の介入を避け自然な関係を保てるように心掛けている。 1F、2Fも含め交流の機会を作るようにしている。	○	個々の好き嫌いを把握しながらもいずれは良好な関係になれるようかたよらないようにしたい。 スタッフが介入しすぎているのではないかな？

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	不明 こちらからの発信はしていない。	○	たまには手紙など発信できればと考える。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を汲み取りながら可能な限りそれに添えるよう努力している。	○	相手の本意を汲み取る努力をしていきたい 居室で過ごす方の居室内の充実を考慮したい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居後徐々に本人や家族から情報収集し支援できるようにしている。 まだまだ不十分な事も多い。	○	家族への情報収集をもっと考えたらどうか。 もっと行う時間を作って生きたい 入居前に家へ伺ったり周りの環境の調査をしたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	記録を元に情報を共有し把握に努めている。 入居期間が長い人ほどこちらの思い込みですすめてしまう事も多い	○	タイムリーな対応の共有化に努めたい。 状態の見極めを」常に行なっていきたい。(意識して取り組みたい)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	プラン会、カンファを行いプラン作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態に応じた見直し、対応を行なっているが業務ノートや介護記録を使つての対甥がおくれている。	○	担当によるプラン変更の提示 見直しの仕方の勉強をしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り、カンファの記録により行なえている。	○	時間的に足りないところもあるが記入漏れも多いためしっかり記録するようにしていきたい。 改善点を担当がタイムリーに広い共有、統一できるようにしたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接老健の協力を頂いて行なえている。	○	各事業所のスタッフとの和みの関係が作れたらよい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	頻回ではないが必要に応じて協力頂いている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	不明 施設を借りる事はあってもサービス利用まではしていない。	○	他サービスとの併用をどこまで行なうか検討必要。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	不明 今の所消極的な対応しか帰ってきていない。	○	どこまで協力していただけるか確認していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診を取り入れたり本人、家族の希望に沿った対応をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	往診医がおり支援できていると思う。 認知症に詳しい医師がいない	○	
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週1回看護師さんが来てくれておりノートを使用し相談したりしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家人、病院と相談し早期退院にむけて依頼、対応している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	プラン会にて話しており個々に対応させてもらっている。	○	フロアが違うと共有できていない部分もある。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	1名のターミナル実施後話し合いを行い看取りの寸否確認した体制は整ってきたがスタッフ数の不足の問題もあり難しい所もあり。	○	家族間に温度差もあり再度話し合いの場を持ちホームの考えを理解していただきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人の意思を確認しながら必要な情報交換を行い防止に努めているが充分かは不明。	○	本人が本当に納得しているか問題である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々に対応を考え行なっている。	○ 日誌等記録として残るものは表現が適切であるか常に見直しが必要である。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定できるような環境を提供し見守る姿勢にて支援している。	○ 常にゆっくり待つ姿勢を持ち意識していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調を把握した上で支援できる様にしている。 生活リズムや業務を考慮したうえで希望を取り入れている。	○ 本人の動きをしっかりと見極めたうえで支援していきたい。 スタッフが先に動いてしまう事も多いためもっと入居者さんが動き出すまで見守っても良いのではないかな？
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	馴染みの店があるかたは希望が叶うよう支援している。	○ よりもっとお洒落を楽しめるように商品やお洒落着など充実させていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事は手伝ってもらったり仕事に関しても個別表を取り入れている。	○ 好みのものを取り入れつつも栄養の偏りにも配慮したい。 もっと個別性をだしてもいいのではないかな？
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	健康状態、体調を考慮しながら支援している。	○ 自分で訴えられない方に対してもっと家人からの聞き出しを行い支援したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間だけでなく行動、体調も考えながら誘導している。	○	失敗し恥ずかしい思いをさせないように自分で片付けられる様支援したり、失敗の原因を考え事前策をとれるようにしていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	難しいときもあるが希望を考慮してできるだけ支援できるように心掛けている。	○	一人ひとり希望を伺いながら安全面にも配慮したい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活リズムの構築から安眠できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	かたよりはあるが支援できている。	○	個々の趣味をもっと見つけて行きたい。本人、家族からもっと情報収集していきたい。TV、カラオケの付けっ放しがきになる。見ていないときは消してもいいのではないか。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や能力に応じて持っていたり支払いしたりと支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調、希望をより可能な限りで掛けられるように支援している。		もっと回数を増やして行きたい。希望を把握できない場合があり、いくつか候補を挙げて選んでいただく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	出来る限り支援している。(行ける時、行けない時あり)一人一人希望を把握できていない。	○	もっと回数を増やして行きたい。希望を把握できない場合があり、いくつか候補を挙げて選んでいただく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望あれば支援しているが十分ではない。	○	本人の希望をしっかりと見極めた上で、手紙の支援をもっと行なっていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問できる雰囲気づくりと来所時にはゆっくり出来る環境作りに努めている。	○	もう少し情報収集し利用者との橋渡しが出来れば
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。	○	指定基準について再度みんなで確認しあいたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全確保のため行うことあるがそれ以外行わないよう心掛けている。	○	ベランダへのロックしている人の再評価行って行きたい。常に施錠の必要性を考え行動する。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	見守りを重視しつつも行っている。	○	一人で外へ出て行ってしまいう事もあるため一人で過ごす時間を大切にしてもらいながらも人数把握に努めたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁や洗剤は見守り不可のときに鍵をかうようにしたり取り組んでいる。 危険であること知らせつつ見守りしている。	○	しまい忘れ、出しっぱなしが目立つため使用後もとの位置に戻すよう意識したい。 居室内での支援の時間を増やし、もっと気づきを増やせるようにしたい
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	勉強会、マニュアル作成より取り組んでいる。 事故報告書検討しても繰り返し起こることあり。	○	自己意識の強化 防げる事故を減らす努力。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に行なっているが充分かは不明。	○	自己勉強の継続 定期的な訓練の訓練の継続 希望ありの勉強会を行なっても、勤務日以外でてこない方もありそのスタッフ間の温度差をどうするかが課題。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練の実施をしておき協力体制もとのつつある。	○	スタッフ全員で考えてシステムを作ったらどうか？
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	勉強会もし、努めておりかぞくへも常々話し合い伝えている。	○	常に初心に戻る機会が必要。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	観察、申し送り、記録より実施している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬は皆で行い一覧表、お薬手帳を整える事で理解し努めている。 変更時の症状などの変化、観察に努めている すべて把握できているかは不明。	○	一人一人の内服等についてより理解を深めより確実な内服に努めていく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる			
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	実施できていない事が多い。自立の方は把握できていない事も多い。	○	毎食後でなくとも意見しこえ掛け加入していきたい。 スタッフの自覚不足。居室介入していきたい 人数が多い昼食後支援できないか

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調を見極めながら代替食の提供や一日の水分量を記録したりしながら取り組んでいる。	○	期間を区切り(1日、1週間)栄養バランス考慮したうえで食事の食事の習慣も尊重していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ハイター消毒やヒビスクール消毒等最低限行えている。まだ十分でないと感じるときもある	○	来客に対する消毒の徹底。感染症がある方の把握。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	常々漂白や食材チェック行い出来ている。アバウトなところも多くまだ十分ではない。	○	台所、冷蔵庫を常に清潔を保つ。業務の中に組み込み込み責任の所在をはっきりさせる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花壇や看板、長いすの設置と行っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ドアの開閉の音気になる方もあり定期的に掃除や防音テープはったりしている。掲示物など季節にあわせ検討、改善している。	○	食堂の汚れ気になるためもっと意識して掃除に取り組みたい。TVのつけっぱなし多い。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベンチを多く置いてあり思い思いの所で過ごしている。グループになること多く、声が混じってしまう。	○	段差もあり難しいが和室の再検討。(気のひけるもの常においておく、等)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していたものを持ってきて頂けるよう依頼しているが充分かは不明。 写真や置物個々にあわせ行っている。	○	家族に協力依頼しながらもう少し検討の余地有り。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日々の換気、空気清浄機の設置にて行えている。	○	居室内への対応全体的にもっと意識して行なっていきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々にあわせ工夫しながら行えるようにしている。	○	ソファの改善
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレマットや張り紙設置し工夫している。 過介入している場面も多いように思う。	○	もっと見極めをしっかりと意識し本当に必要な分だけ介入出来るようにしたい(混乱させすぎってしまう事も多々あり)
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇や畑、ゆっくり出来る場所の設置をし季節に応じて行えている。 2Fベランダに関しては不十分	○	もっと活動を促して行きたい。 特に2Fベランダの掃除見直し必要。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者の訴えを聞き、出来る限りのことは行っている。

各々の生活リズムに合わせた生活が送れている。

皆さん生き生きしている。

ホームをもっとよく知って親しみを持って頂けるよう、外部の行事への積極的な参加。

外出できる事、外出したいと思う気持ちを支援し、より健康に病気に付き合ってもらっている。